

「ねじのロケット」、今夏打ち上げ

「取り組みきつ

かけに、業界元気に」(奥山)



「取り組みきつかけに業界が元気になれば」と話す奥山社長



今夏打ち上げを予定している「ねじのロケット」

東大阪のねじが宇宙へ。この夏、民間企業による宇宙開発の挑戦として「ねじのロケット」が北海道大樹町から飛び立ち宇宙を目指す。
サンコーインダストリー(大阪)が今夏打ち上げを予定している観測ロケット「ねじのロケット」と命を懸けて打ち上げられる予定で、打ち上げられる予定あり、同じくスポンサーとして掲げており、従

来よりも低価格かつコンパクトなロケットの実現に向けて開発や打ち上げを続けている。今回サンコーインダストリーがスポンサーとなった観測ロケット「MOMO」は20キロのペイロード(運搬能力)を有しており、打ち上げ後およそ250秒で大気圏と宇宙空間との境界線とされている高度100キロのカーマン・ラインを超えて宇宙空間に到達する。なお、同社ではエンジンなどロケットに使用する各部品をはじめ、燃焼試験に使用する装置や関連部品に至るまでほぼ全て自社で製造

サンコーインダストリー

観測ロケットのスポンサーに



サンコーインダストリーのねじが多数使われている



マシニングセンターが並ぶ工場棟

稲川社長は同社の開発方針について「宇宙への輸送費は1キロ100万円とも言われているが、輸送コストを安くするのが宇宙時代を築くための第一歩ではないか」を行っている。
「MOMO」には1機体あたりおよそ2500点のねじ類が使用されており、このうちサンコーインダストリーが扱っているねじが半数以上使われている。奥山社長は今回のスポンサー契約について「見学した際に東大阪で作られたねじが使われていることが分かり、非常に感銘を受けた。MOMOには当社が扱うねじが多数使われていること、これを実共に『携帯からロケットまでねじを供給する企業』となれたのは『言』メントしている。また、『ねじのロケット』と名付けたが、この取り組みをきっかけとしてねじ業界が元気になれば」旨話し、今夏の打ち上げに期待を示した。

「MOMO」には1機体あたりおよそ2500点のねじ類が使用されており、このうちサンコーインダストリーが扱っているねじが半数以上使われている。奥山社長は今回のスポンサー契約について「見学した際に東大阪で作られたねじが使われていることが分かり、非常に感銘を受けた。MOMOには当社が扱うねじが多数使われていること、これを実共に『携帯からロケットまでねじを供給する企業』となれたのは『言』メントしている。また、『ねじのロケット』と名付けたが、この取り組みをきっかけとしてねじ業界が元気になれば」旨話し、今夏の打ち上げに期待を示した。

「MOMO」には1機体あたりおよそ2500点のねじ類が使用されており、このうちサンコーインダストリーが扱っているねじが半数以上使われている。奥山社長は今回のスポンサー契約について「見学した際に東大阪で作られたねじが使われていることが分かり、非常に感銘を受けた。MOMOには当社が扱うねじが多数使われていること、これを実共に『携帯からロケットまでねじを供給する企業』となれたのは『言』メントしている。また、『ねじのロケット』と名付けたが、この取り組みをきっかけとしてねじ業界が元気になれば」旨話し、今夏の打ち上げに期待を示した。